

東京交通新聞 2010年1月11日(月)

<通院中心に利用定着 南房総市デマンド乗合タク>

一般タクにも波及効果

千葉県・南房総市のデマンド型乗合タクシー実証運行が昨年10月1日からスタートしておよそ3カ月が経過。廃止バス路線の住民の足の確保とともに既存バスと連結し相互利用を図る取り組みに注目が集まっていたが、2路線のうち「やまなみ線」は利用が定着し順調に推移している。市や地元タク事業者によると発着点の富山国保病院前では新たな一般タクシーの利用もみられ、想定外の需要効果を生んでいる。



セダン車で運行する南房総市
のデマンド乗合タク

富山地区で運行している「やまなみ線」(運賃200円・富山国保病院前で市営バス富山線と接続)の利用人数は10月が143人(現金利用71人、バス乗り継ぎ利用券45人、国保病院特別無料乗車券22人、市営バス回数券5人)、11月は159人(現金77人、乗継券50人、病院無料券19人、バス回数券13人)。

通院利用が中心で「廃止したバスとほぼ同じ利用件数に達している」と同市。市営バスとの乗り継ぎ利用については、12月から翌年2月にかけ同地区のハイキングシーズンに重なるため、市外の利用者の増加も期待している。

病院前にセダン車のデマンドタクシーが待機するようになったことで、その運行時間外の一般タク利用も発生。10月7件、11月は17件を数えた。住民からは「病院前にタクシーが待機していると安心感がある」といった声も寄せられている。

受注・配車業務は地元タク8社(鏡浦自動車・館山中央交通・南房タクシ~・晝夜タクシ~・白浜タクシー・野島タクシー・古川タクシー・鋸南タクシー)が月別に輪番で担当している。

10月の運行を担った南房タクシ~の片方義明取締役は「開始1カ月で予約注文の仕組みが市民に理解された。悪天候でもバス停まで歩かないで自宅前で乗車できる利便性がある」と指摘。

一般タク利用については「デマンドをしながら通常営業もできるメリットが事業者にはあり、待たずに迎車料金なしで乗れるのは利用者にとって大きい」としている。

一方の「ちくら線」(運賃 200 円・旧千倉町の無料バス運行ルートを有料化)は 10 月、11 月とも 9 人と利用が少ない状況。市は「路線存続を望む地元住民の要請で設定したが、やまなみ線との 2 極化が進んでいる。必ずしも有料化だけが原因とは言い切れない」としている。